

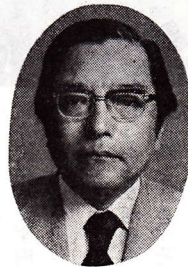
ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう
すべての人間の尊厳を重んじよう
教育・科学・文化の発展に努めよう
民族間の疑惑と不信を除こう
世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

平和の砦は人間の心から

反響を呼んだ南アジア映画祭

広島ユネスコ協会副会長 河村盛明



され、先進国の退廃した映画に
馴らされた目には、ことのほか
新鮮に感じられたに違いない。
映像は現実そのものを写し出
す。たとえそこに劇やドラマが
展開されようと、背景にある風

スラム街をバックに物語が展開
する。貧困と飢餓、その中で懸
命に生き抜こうとする人々。そ
の純粋な映画表現を現実そのも
のとして見るとき、考え込まざ
るを得ない。

になつたためにかえて人間の
心が病んでしまったのではない
かーこれらの映画を見た批評家
たちは口々にこういつている。
一種のカルチュア・ショックと
いつてよい。このショックを機
会にもっと深く南アジアの現実
を知らねばならない。そして人
間を忘れた経済条件だけの協力
や支援などは、いかに空々しい
ものかということを知、知るべき
だろう。日本は間違いなくアジ
アの一員であり、しかも同じ人
間であることを基本に据えて置
かねばならないとつくづく思
う。「平和の砦」はそういう視
点があつてこそ始めて可能にな
るはずである。(広島平和文化
センター理事長)

国際交流基金主催の南アジア
映画祭が大きな反響を呼んでい
る。東京、神戸では観客があふ
れ、広島でも超満員だったとい
う。しかも若い層の人たちが目
立ち、その関心の深さが示され
た。

インド、スリランカ、フィリ
ピン、タイ、インドネシアの南
アジア各国は現在有数の映画国
といわれるが、その作品が日本
で上映される機会も少なく、作
品の水準も低いというあらぬ評
価を受けていた。しかし今回の
映画祭では、貧しい環境にもめ
げず、生き抜こうとする人間の
真実の姿がくっきりと写し出

南への目

景や街は現実そ
のものである。
スリランカでは
室内撮影のライ
トが不足するの
で主として戸外
撮影をしたとい
う。この経済的
条件は南アジア
各国とも同様だ
らう。だから

「苦いひとくち」(インド)は
カルカッタの貧しい街並と人々
をくっきりととらえたし「田舎
の教師」(タイ)はバラック建
の校舎で学ぶ子供たちの姿を写
し、「きすらい」はスラバヤの

広島ユネスコ協会
五十七年度役員

- ◇名誉会長 荒木武 ◇顧問
内海巖・永井滋郎 ◇会長
岡田泰二 ◇副会長 松原
博臣・信井正行・河村盛明
◇常任理事 (教育活動) 藤
井千之助・溝上泰・森分孝治
(組織活動) 古川浩司・山崎
克洋・水野文隆 (文化活動)
加藤朗一・新川貞之・定宗一
宏 (国際交流) 深崎敏之・北

- 川建次・永田龍男 (広報活
動) 高橋昭博・藤井正一・古
田碩永 ◇理事 俣野仁一・
藤本嘉一・田中登志子・山口
和彦・齊藤清三・尾尻隆之・
江川琢也・滝口節夫・太鼓矢
晋・池田博重・末野忍・亀井
章・長迫凱郎・福永武志・山
根敏徳・深瀬文恵・松岡盛人
・薄田信也・兼田是樹・石田
昌義 ◇監事 生垣公敬・増
田昭二 ◇事務局長 伊東亮

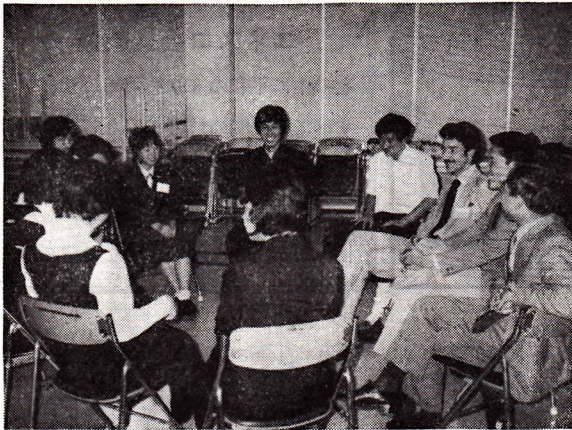
広がったユネスコの心の輪

11月7日

高校生のつどいを開催

十一月七日(日)、平和記念館第一、二会議室に於て、第五回ユネスコ高校生の集いが開催されました。(広島ユネスコ協会、平和文化センター主催)

これに先だち、午後十時から十二時までの二時間、市内の高校生のグループによるユネスコ・コアクシヨン街頭募金活動が行われました。日本ユネスコ



熱心に協議する高校生たち

前に集まり、生徒達はまず内海顧問より、ユネスコ・コアクシヨン活動の説明を聞き、その後緑色の布地に「発展途上国の自立に協力を」と白く文字を染めぬいたのぼり、グリーン募金箱、ポスター、帽子、たすき、腕章などを持って三か所に分散。一か所生

徒達はまだ内海顧問より、ユネスコ・コアクシヨン活動の説明を聞き、その後緑色の布地に「発展途上国の自立に協力を」と白く文字を染めぬいたのぼり、グリーン募金箱、ポスター、帽子、たすき、腕章などを持って三か所に分散。一か所生

「発展途上国の自立にご協力を」と大声で呼びかけ、三か所の募金集計額は四万六九円の協力を得ることができました。募金活動は、生徒自身も貴重な体験として大きなプラスになったことと思えます。募金のお金は、伊東事務局長を通して日ユ協のユネスコ・コアクシヨン資金に振込まれます。募金活動後、二時から五時三十分まで、第五回ユネスコ高校生の集いが行われ、国際理解の精神を育成し、自主的活動を考えさせる趣旨のもとに賛同する生徒が集いました。(五校生徒二十二名、指導者九名、ゲスト三名)この集いも第三回から、生徒達で運

岡 田 病 院

内 科・呼吸器科

院 長：岡 田 泰 二

(広島ユネスコ協会会長)

広島市南区元字品町26-19

電 話 251-5458

徒約六名と責任者がつきまじりました。そこら前に、内海顧問、アンデルセン前に、加藤常任理事、佐々木先生、福屋裏には太鼓矢先生、永田先生についていただき、市民へ街頭募金の一声を発していたいただきました。あいにくの小雨の中、コアクシヨンのパンフレットを通行人に手渡したり、「水にこまっている国の人達に募金のご協力をお願いします」「発展途上国の自立にご協力を」と大声で呼びかけ、三か所の募金集計額は四万六九円の協力を得ることができました。募金活動は、生徒自身も貴重な体験として大きなプラスになったことと思えます。募金のお金は、伊東事務局長を通して日ユ協のユネスコ・コアクシヨン資金に振込まれます。募金活動後、二時から五時三十分まで、第五回ユネスコ高校生の集いが行われ、国際理解の精神を育成し、自主的活動を考えさせる趣旨のもとに賛同する生徒が集いました。(五校生徒二十二名、指導者九名、ゲスト三名)この集いも第三回から、生徒達で運

生 塩 眼 科 医 院

院 長：生 塩 公 敬

(広島ユネスコ協会常任理事)

広島市南区出汐一丁目3-8

電 話 251-2845

中国プロック研究会に参加して

当面の課題を協議

去る十月三十、三十一日の両日、松江市において、一九八二年度、中国プロック、ユネスコ活動研究会が開催され参加の機会を得ましたので、報告いたします。

研究会は、桑原武夫日本ユネスコ協会連盟副会長の「ユネスコで世界の連帯地球の平和」と題する基調講演で始まりました。この中で先生は、「世界の連帯を実現し、地球の平和を守

被爆体験の継承を

先般、『ヒロシマ ある歯科医の証言』と題して、原爆体験を詳細に記述した二百頁余りの書籍を自費出版し、全国都道府県はもちろん、米、西独の關係方面に送付した。

原爆体験者が、せめて生きているうちは、当時の実状を後世に語り継ぎ、草陰に眠る人たちへの償いをしたいというところ、反核運動の小さな輪となればという願いからで

りぬいていくことはそんなに容易なことではない。だからといって投げ出すこともできない。

非常に困難な状況の中にあるが、英知をふりしぼっていかなければならぬ。ことを豊富な事例を引用されながら、訴えられました。

続く分科会は、A「国際協力活動をどう深め、発展させるか」 B「青少年のユネスコ活動をどう深く発展させるか」の二つのある。

出版記念会に出席された荒木市長も、原爆体験記の意義を強調され、今後被爆体験者の証言が、どしどし世に出されることを期待すると述べられた。

一冊の体験記が少しでも多くの人に読まれ、一冊の本の灯し火が二冊、三冊の光となり、社会の周囲を平和に明るく照らすようになると、核のない世界の明るい平和が訪れて来るように思っている。ヒロシマの生きた証言こそ、

テーマですすめられました。

分科会Bは、福山ユネスコ協

会の佐藤氏と防府ユネスコ協会道中氏の事例発表を中心に、内海先生の助言をいただきながら研究協議を展開しました。青年部の結成されていない島根県の方々へ山口、広島の方が助言するという形になりました。特に青年部の結成のし方、活動の内容等が話題の中心でした。

翌日は、会場を移し、全体会（前日の分科会発表と質疑応答）と閉講行事で会議を閉じました。お世話いただいた島根県の方々に感謝しつつ報告いたします。（広島市教育委員会社会教育主事・瀬田洋）

反核への防波堤になるかもしれない。世界各国より原爆慰霊碑を訪れる平和の使徒は跡を絶たない。ローマ法王もミッララン・フランス大統領も、平和の願いを胸にいだいて原爆慰霊碑に花束を奉げられた。

平和は人類共通の希求である。世界を結ぶユネスコの使命も、地域・人種を越えて世界の平和に貢献することだと思ひ、今回広島ユネスコ協会に加わらせていただいた次第である。（維持会員・吉岡尊治）

絵をとおして

国際交流

「うーええの！ これは牧場じゃろう。外国は広いけえーええのー。」このさる、童話で出てくる絵に似ているネ」「このビル、四歳にしては良く書いているの！」「あ、教会を中心に線路が走っているぞ、SLが走っているぞ！」「この子の目はブルーじゃ。子どもたちは絵を見ながら話し合っている。お母さん方も「日本人の絵に比べるとカラフルネ、やっぱり日本人の絵と違うネ！」などと話し合っている。公民館に来た人々はこの絵を見て、それぞれに会話がはずんでいた。

これは段原公民館のロビーにて、世界の児童画展を広島ユネスコ協会青年部の協力でもって世界の国々の文化を理解するために、昭和五十七年十月十四日から三十日まで、西ドイツ、オーストリア、ニュージーランドの児童の絵、百六十点を展示した様子でした。子どもたちが世界の国々の子どもたちと実際に会わなくても、自然と友達になっていく姿が毎日のようにみつけられ、主催者としてうれしく感じましたものです。（広島市段原公民館主事・藤井孝行）

聖ヶ丘医院

内科・小児科・放射線科

院長：松原博臣

(広島ユネスコ協会副会長)

広島市西区横川町三丁目10-26

電話 294-1211

会費を納入ください

本年度から「ユネスコ新聞」代が大幅に上がり、事務局は赤字財政になりそうです。会費未納の方は「広島銀行本店普通預金 606413 番広島ユネスコ協会」宛振り込んでください。

随想

晩秋の想い

末野 忍

マンション住いの私は、四季の山なみは眺められるものの、耕す土地がないので、もっぱら心を耕すことにしている。

先日、『乱世京都』（白川書院）という本の中の挿図に文禄の役、日本軍侵攻図なるものに出会い、いいようのないおぞましい想いかられた。

太閤秀吉が、馬廻部隊三万余の鳴り物入りで、堂々京都を肥前名護屋へ向けて出発。小西・宗軍の一番手が朝鮮へ上陸のくだりである。

世界ユ協クラブ 副会長が来広 10月2日

去る十月二日、世界ユネスコ協会クラブ連盟副会長でコロンビア政府教育省国際局補佐ティルソ・フンコ・ゴメス氏が広島ユネスコ協会と交流のため来広されました。同氏は、四日まで滞在し、広島ユ協名誉会長の荒木武市長を表敬訪問し、平和問題や国際交流について話し合わ

「斬首八千余、捕虜二百余。釜山城を二時間で落し、翌十四日東萊、十七日密陽と破竹の北上をつづけ……」

故里をもたない私には、釜山も密陽もなつかしい望郷の地なのだ。私が物心ついたのは密陽であった。呉の海軍工廠を辞めた父が、一家をあげて渡鮮してまもない頃である。城内と呼ばれていた川向うの小高い丘の上には、宮島の千畳閣くらいの大さきの古いお寺のような建物が立っていた。下を流れる川面にいつもその美しい姿を映していた。人はどこへでも自由に行きそして、そこへ住むことができるとも思っていた私は、世界地図を見ては空想にふける少年だった。四百年も昔の歴史や韓

れたほか、青年部のメンバーら十五名と平和運動の取り組みなどについて意見交換されました。

また、協会主催のレセプションで「二年後に仙台市で開くクラブ連盟総会では、八十か国、約二百人が参加する予定である。総会后、原爆の実相、平和を求めるヒロシマの心を知ってもらうために参加者を広島市に連れてきたい。グループで意見交換できるように準備を整えて

国併合の経緯など全く知らなかった。

釜山は、私が中学生時代を過ごしたところである。五・一五事件が起きたのは、中学に入った年だった。故人となられた青柳泰雄校長（後に京都女専校長に転任）が、「これは日本の将来を過る大変なことですよ」と、重たい口調でおっしゃった一言だけは、渺茫とした私の思い出の中に、今も忘れることはできない。それからまもなく、軍事教練の時間もふえ、世の中は、なんとなく軍事色が濃くなっていった。今、モスコイ駐在の高島益郎大使は、その頃の同級生の一人だった。

敗戦の年、私はシベリヤ連行の直前、長春捕虜収容所を脱走のおいてほしい」との要望を出されました。

このほか、同氏は、平和公園視察や岡田会長の案内による宮島の見学をして、四日離広されました。

ユネスコ一ロメモ

ユネスコと財政

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の財源は、加盟国の

した。毎日のように、失敗した傷ましい遺骸を目撃したが、一足先に北鮮へ疎開した妻子に遭いたい一心からだ。嵐の夜自動小銃で乱射される弾をくぐって、私は死戦を越えることができた。

二年ほど前から、やっと中国と韓国の旧友から便りが来るようになった。中華人民共和国の水利学校で、気象学を教えている李一心氏からの第一信には、「思わしい戦争が原因で、三十二年も何の便りができなかったことは、互に仕方がないことでした……」と。大韓民国の国会議員をしている王相殿氏からは美しいクリスマス・カードだった。それから、旧交を温める便りの往復がはじまった。

分担金や任意拠出金のほか、国連諸機関の財源、関係団体・個人からの拠出金・寄附金でまかなわれています。

加盟国は、それぞれの経済力等によりあつた比率によってユネスコに資金を拠出する義務を負っていて、その比率を分担率、また、その拠出金を分担金とい

外地からの引揚後、私は欧州には二度行く機会に恵まれたがなつかしいはずの韓国と中国には、未だ行ってない。疑いもせず異民族の共存を信じ、外地でのびのびと過した私は、観光客として訪ねることのうしろめたさが行く気になせなかつた。

「渉石集」の中の『財多ければ身を害し、名高ければ魂を害す』は、日頃の私の自戒の言葉である。さきごろの教科書問題も、軍拡論議も初心を忘れた、われわれ日本人の高慢でしかない。平和の礎となった亡き友のためにも、子孫の未来のためにも、いつかきた道にだけは向けさせてはならない、と思えてならない今日この頃である。（理事）

す。△総額六億二千五百三十七万ドル▽アメリカ△二五%、◇ソ連△一〇・九八%、◇日本△九・四八%、◇西ドイツ△八・二二%、◇フランス△六・一九%、◇イギリス△四・四一%、◇イタリア△三・四一%、◇カナダ△三・二四%、◇オーストラリア△一・八一%、◇スペイン△一・六八%、◇その他△二五・五八%（文部省「ユネスコと日本」より）